



黄金の

大豊作！ 1万2千個

近年、各地で記録的な猛暑、豪雨、暖冬と、異常気象と言われる気候がみられ、夏の豪雨では岐阜県にも甚大な被害を及ぼしました。しかし、そんな雨にも負けず、風にも負けず生き抜いた黄金の実が、今年も池田白鳥工場を鮮やかに彩りました。池田白鳥工場の名物 夏みかんです。厳しい環境下でも、負けじとずっと大きく育った夏みかんは、今年は1万2千個も収穫できました。工場周辺には、現在100本近い夏みかんの木が植えられ、毎年この時期になると1万個近い夏みかんを収穫することができます。異常気象もあり、収穫量が落ちることも覚悟はしていましたが、予想をはるかに超え、今年は大豊作。うれしい驚きでした。

工場周辺に立ち並ぶ夏みかんは、冬には黄金に夏には新緑に工場を飾りますが、緑化のためだけに植えられているのではありません。ある不思議な出来事をきっかけに、そしてある想いをこめて、植えられるようになりました。

ごみ置き場の小さな芽

ある日、当社の創業者である尾木信藏の自宅庭のごみ置き場の中から、小さな芽が顔をだしました。それが夏みかんの芽だったのです。そのまま育てることにはしたものの、その後数か月、数年、そして10年が経っても、太く育ったその枝に実をつけることはありませんでした。諦めてもう切らせていただこうと、お塩とお神酒までお供えし、ノコギリを持ち出しはしましたが、奥様からの「かわいそうだから、もう1年待ってあげましょう」との一言もあり、あと1年だけ待ってみることにしました。

すると驚くことに、翌年一挙に数多くの実をつけました。それどころか翌々年には倍の実をつけ、以来毎年たわわに実るようになったのです。

通じ合うヒトと植物

このようなことがあり、この寒い岐阜の地でも実をつける夏みかんの生命力と、人間と植物との対話の感化力に感銘を受け、以来、池田白鳥工場にて、入社式の記念植樹として、夏みかんの苗を植えるようになりました。従来、記念植樹として植えてきた桜とのコントラストは非常に美しく、春には桜が、桜が枯れる冬には夏みかんが、それぞれに輝きます。我々がいかに自然の力に支えられ、生きているのか。季節の流れに身を任せつつ、お互いに譲り合いながら交互に咲く桜と夏みかんを見るたび、我々はそれに気づかされ、そして深く感謝することができます。



尾木信藏宅 実際の夏みかんの木
(1989年2月撮影)



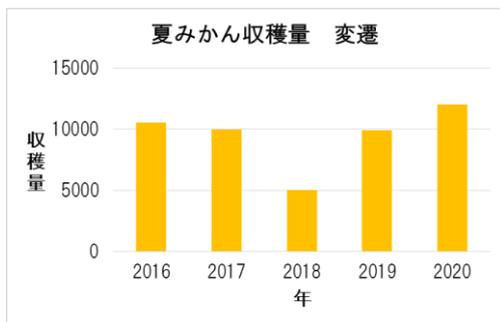
[Green]
Gentle for environment

当社のロゴは岐阜セラック製造所(Gifu Shellac Mfg)の頭文字をとっていますが、それ以外にもたくさんの意味が当社のコンセプトとして込められています。そのひとつが「G(green)」。当社はセラックという天然物の製造から始まりました。化成品の事業に手を広げた今でも、自然環境への敬意を忘れてはいけな、という想いを表しています。

夏みかんは 一日にしてならず。

当社の夏みかんの木は、もちろん自生しているわけではありません。工場が稼働する傍らで、毎日、年々、欠かさずせつせつと育てる社員がいます。専門の担当者がいるわけではありません。彼らは工場美化の一環として、工場に植えられた様々な植物の手入れをしてくれています。お客様や社員へよりおいしいみかんをたくさんお届けできるように、様々な工夫が施されています。

実は、2018年に、当社の夏みかん収穫量は一度、激減してしまいました。原因を追究するため、みかん農家の方を工場にお招きしてご指導をいただいたり、大幅な剪定を行ったりと改良を加えたことで、翌年には回復、今年はついに以前の収穫量を超える大豊作となりました。収穫時には、およそ二か月にわたって収穫し、一万个を超える夏みかんの実ひとつひとつを磨く、それら全て数人で行います。決して目立つ仕事ではありませんが、毎日ひっそりと積み上げたそんな努力で、今年も我々社員やお客様の手元にずつしり実の詰まった夏みかんが届きます。今年もありがとうございます。その思いで、おいしくいただきます。



収穫後には工場内に夏みかんの山ができます。



トラックいっぱい収穫



地道な収穫作業



農家の方に剪定方法を伺いました。

夏みかんのヒミツ ナツ「代々」??



「夏みかん」とはただの通称で、本来の名前はナツダイダイ(夏橙)と言い、さらに過去に遡ると、「夏橙」ではなく「夏代々」だったと言われています。夏みかんにはある特徴があり、翌年について実を収穫せずにおいておくと、その実が落ちることなく、その年の実は新しく芽生え、2年分の実が同時に枝につくという点。このことから、「代々」実がつく木ということで「ダイダイ」と呼ばれるようになったそうです。

萩の町、現在の山口県萩市では、明治期、職を失った武士への救済措置として、ナツダイダイの栽培が推奨されていました。明治維新後の四民平等思想から困窮した士族たちは、ナツダイダイに「代々栄えますように」という願いを込めたとされます。しかし、「代々」という文字は「ヨヨ」と読むこともでき、それがある病の通称でもあったことから「夏橙」という表記、もしくは「夏蜜柑」という名前に改めることに。改名により夏みかんは好調に売れ、今では山口県が夏みかん栽培全国第一位、萩市には当時植えられた夏みかんの木が今でも多く残っているとされます。



《大日比夏蜜柑原樹》
江戸時代に生まれた夏蜜柑の原木で、天然記念物に指定されています。黒潮に乗って南方からやってきた種を西本於長が蒔いたと言われています



岐阜農林高等学校 × 岐阜セラック製造所

黄金の夏みかん

マーマレード / ジュース

岐阜農林高校と当社の「黄金の夏みかん」のコラボで、マーマレードとジュースを開発し、商品化しました。ご興味のある方はお問合せください。

TEL: 058-272-0831 MAIL: info@gifushellac.co.jp